

# 演習01:要求定義

## 課題

需要予測モデル導入の検討にあたり、社長、調達本部長、調達部門担当、店長にヒアリングを実施しました。収集した情報を基に、どのようなAIが求められているのか整理してください。  
また、PoCの検証目的・検証範囲と、需要予測の対象とするべき商品の絞り込みの観点を検討してください  
解答の枠組みに沿ってまとめてください。

### 解答の枠組み

AI活用の目的	現状・課題	優先度
需要予測精度の向上	- 過去の販売実績や新商品情報などを基に、担当者名が分担して、約9,000点の商品の需要予測を行っているが、精度が低い ため、機会ロス・余剰在庫が発生し、利益を圧迫している。 - 特に新商品やクリスマス商戦等の需要変動が大きい時期は予測が難しく、精度が安定しない。	High
需要予測業務の効率化	- 需要予測に月の7割の時間を費やしており、担当者にとって大きな負担となっている。 - 経験に基づいた予測であるため、担当者間で予測にばらつきがあり、属人的な業務プロセスになっている。	High
予測根拠の可視化	- AIが出した予測結果に対して、なぜその予測になったのかを説明できる必要がある。 - 担当者がAIの予測根拠を理解し、納得できるようにする必要がある。	Middle
外部データの活用	- 価格やキャンペーン情報などの外部データは、現状では活用されていない。 - より精度の高い需要予測を行うためには、外部データの活用が不可欠である。	Middle
費用対効果の検証	- AI導入・運用にかかる費用と期待される効果を比較検討し、投資に見合う効果が得られるか検証する必要がある。	Middle
PoCの検証目的・検証範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去データを用いた需要予測モデルの精度検証を行い、目標とする精度を達成できるか確認する。</li> <li>現状の予測プロセスと比較した際の、業務効率化の効果を検証する。</li> </ul>	
需要予測の対象とするべき商品の絞り込みの観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ化されている過去データを用いて、クリスマス・年末商戦を含む2月の売上数量予測モデルを作成する。</li> <li>予測対象商品は、需要予測の精度検証がしやすいよう、まずはデータが豊富に蓄積されている商品群に絞る。</li> </ul>	